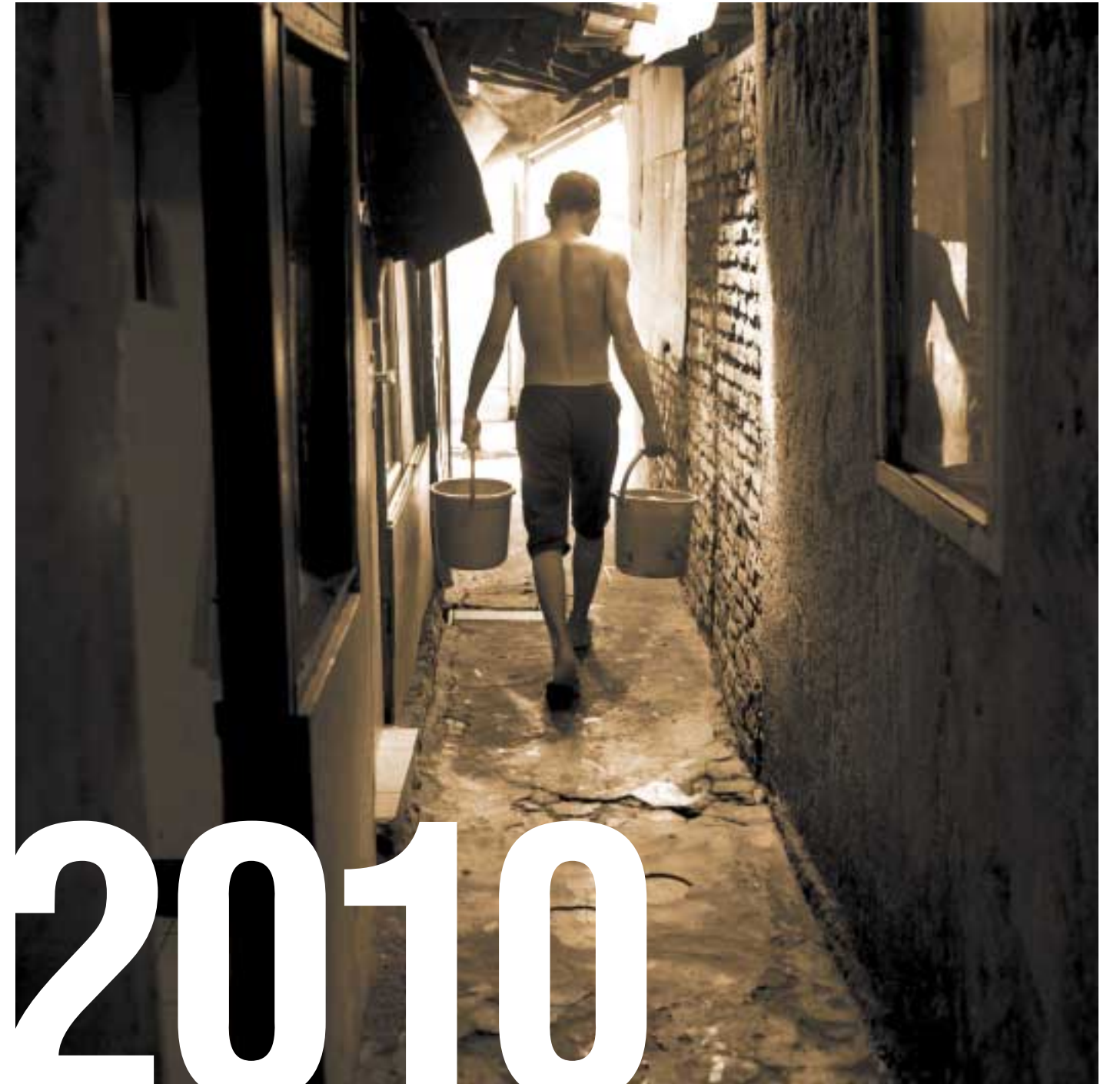


WHO 健康開発総合研究センター

年次報告書



WHO 健康開発総合研究センター (WHO神戸センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1

I.H.D.センタービル9F

Tel: 078-230-3100 Fax: 078-230-3178

<http://www.who.or.jp>

wkc@wkc.who.int



WHO 健康開発総合研究センター

年次報告書

目次

I. 世界保健機関健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）の主導的役割 03

II. 都市部の健康格差の是正に向けて 04

- A. 健康の公平性評価と対応 04
- B. 都市部の保健行政研究 05
- C. 気候変動と都市部の健康 07

III. 都市における健康の公平性のためのアドボカシー 08

- A. 都市部の健康改善を目指すグローバル・パートナーシップの構築と維持 08
- B. 2010年世界保健デーのキャンペーン 09
- C. 「隠れた都市の姿」－WHOと国連ハビタット共著のグローバル・レポート 10
- D. 「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムと神戸行動宣言 10
- E. コミュニティ・地域社会との協力 10

IV. 運営管理およびインフラ・テクノロジー支援 11

- A. 都市における健康の公平性の主流化 11
- B. 兵庫県、神戸市とのパートナーシップ 12
- C. 情報通信テクノロジー（ICT）と運営管理 12

V. 結論および今後の計画 15

- 付録1: 2010年 WHO神戸センター諮問委員会 15
- 付録2: 神戸行動宣言 16
- 付録3: 2010年 WKC出版物および研究発表 19
- 付録4: 2010年 職員名簿 21

© 世界保健機関（WHO） 2011

日本語は、WHOの公式言語ではなく、従って、この翻訳版は、WHOの公式出版物ではありません。

不許複製。WHO出版物の複製または翻訳にかかる許可申請は、目的の如何（販売、非営利の配布等）を問わず、以下にお問合せください。
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区協浜海岸通1-5-1 I.H.D. センタービル9F
WHO健康開発総合研究センター
Fax: 078-230-3178
E-mail: wkc@wkc.who.int

本報告書の中で用いられている呼称および資料の提示方法は、いかなる国家、領土、都市もしくは地域またはその当局の法的地位ならびにその国境または境界の設定に関するWHOの見解を表明するものではありません。地図上の点線は、関係国間でいまだに完全な合意が得られていない、およその境界を示しています。

文中に特定の企業や製品の名称が言及されている場合であっても、WHOはそこに言及されていないが類似した性質を有する企業、製品に比して、それらの企業、製品を特に支持または推奨するものではありません。誤植、脱落は別として、独自製品の名称は、頭文字に大文字を用いて表記しています。

WHOは、本報告書の出版に際してあらゆる合理的な手段を講じて内容の確認を行っていますが、その配布にあたり、明示または黙示の別を問わず、一切の保証を行うものではありません。本報告書に記載されている内容の解釈、使用の責任は読者に帰します。WHOは、本報告書の使用によって生じた損害に対して一切の責を負いません。

Printed in Japan

注）文中に記載の呼称（人名・地名・団体名・会議名など）は、WHO健康開発総合研究センターによる非公式日本語訳・表記を含み、これを正式呼称とするものではありません。

Cover photo : WHO/Ana Kari

序文

2010年は、都市化と健康の取り組みにとって非常に意義深い一年でした。2010年には都市部の健康改善の取り組みが大きく前進しましたが、同時に、ハイチの地震やパキスタンの洪水など、災害に強い都市づくりの重要性を再認識させる事象も数多く発生し、コミュニティや自治体の指導者が世界の過半数を占める都市人口の健康に対して果たす役割の重大さが改めて浮き彫りにされました。



今や世界が都市環境に注目し始めています。例えば「Better City, Better Life（より良い都市、より良い生活）」をテーマに開催された上海万博では、都市生活の改善に向けた革新的な技術やアイデアが紹介されました。しかしながら、都市化による健康への影響についてはまだ十分に知られているとは言えません。私どもWHO神戸センター（WKC）は、都市部の状況こそ21世紀に世界が直面する最大の健康課題の1つであると捉えています。一般に都市部では、平均所得、平均寿命、平均有病率、予防可能な原因による死亡率の平均などの平均値は公表されますが、これらは年齢の違い、貧富の差、貧しい居住区に住む人々の健康リスクなどを反映しません。だからこそWKCは、都市生活者全員の利益を念頭に置いた適切な政策を打ち出し、行動に移すためのアドボカシー、研究、支援を続けているのです。

2010年、WKCは1年がかりで都市部の健康改善に関する問題意識向上、政治的支援と行動、提言やツール開発を行うキャンペーンを展開いたしました。本年度の年次報告書では、こうしたキャンペーンの成果と共に、都市間と都市生活者間に存在する健康格差の是正に対してWKCが行った努力を中心にご報告いたします。

2010年世界保健デーは、WHO設立以来初めてジュネーブ本部以外のセンターに主催が委ねられた、記念すべき行事となりました。WKCが全世界のパートナーやコミュニティと協調し、「進行する都会化と健康を考える」をテーマとした2010年世界保健デーには、1500以上の都市が参加しました。地元神戸では、市による4週間にわたるキャンペーンと2日間の健康増進イベントが繰り広げられました。

住民の健康を増進し、住民の安全を保護するような都市を計画、設計、管理することは可能なはずです。そのためにWKCは、国および自治体の指導者に役立つツールや指針の開発に弛まぬ努力を続けています。その一例が2010年に発表されたUrban HEART（都市における健康の公平性評価・対応ツール）で、現在世界の複数の都市で導入が進められています。また、「禁煙都市」プロジェクトの成果として、禁煙条例を実現するための「禁煙都市への12ステップ」と「モデル条例」を作成しました。

神戸で開かれた「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムには、80ヶ国から50名以上の市長、知事、大臣他、政府代表者が集まりました。このフォーラムは、神戸市の豊富な経験を国際舞台で披露する絶好の機会となりました。各国の指導者は都市部の健康問題解決への第一歩を踏み出したことに鼓舞され、将来の方針が神戸行動宣言という形で承認されました。

WKCはこれまでに築き上げた研究基盤の上に立ち、2010年度に打ち出された活動を今後も引き続いて発展させていくことに最善を尽くしてまいります。WKCの事業と成果は、神戸グループからの多大なご協力なしには成し得ませんでした。この場をお借りし、神戸グループの一貫したご支援に心よりお礼申し上げます。

WHO神戸センター所長
ジェイコブ・クマレサン



I. 世界保健機関健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)の主導的役割

都市化は全世界で急激に進み、その傾向は今後も続くと考えられています。2007年には、人類史上初めて都市生活者が世界人口の過半数を超え、その数は増加の一途をたどっています。2030年までに10人中6人、2050年までには10人中7人が都市圏に居住すると予測されています。この現象が人々の健康と福祉に与える影響を理解し、事前に適切な政策や戦略を敷くことによって、この影響を好機に変えていく必要があります。



WHO/SEARO



WHO/SEARO

都市化と健康、なかでも健康の公平性を研究する専門機関として、WKCは社会、経済、および環境の変化が及ぼす健康への影響、また保健政策への反映について研究を進めています。環境的、社会的、政治的な要因が都市生活者の健康を左右

するという事実を認識することが最も重要な第一歩です。この相関性に対する理解は拡がり、今では政治的アジェンダの上位に位置づけられるようになってきています。その代表例が、「Better cities, Better life (より良い都市、より良い生活)」をテーマとした2010年上海万博であり、「進行する都会化と健康を考える」をテーマとした2010年世界保健デーでした。WHOは都市化が健康に及ぼす影響に対しての問題意識の向上、世界各国や諸都市での活動を誘発するパートナーづくり、そして急速な都市化を効果的に管理する戦略を見出し、都市における健康格差是正の方策を提言する分野でリーダーシップを取っています。

2010年上海万博でのWHO展示ブース



LV5 Exhibition Service (Shanghai)

II. 都市部の健康格差の是正に向けて

都市化の進行と都市部人口の急激な増加が都市の資源とインフラに過度の負担をかけ、社会的弱者に十分な栄養、保健医療サービス、安全な環境その他、健康的生活に欠かせないものへのアクセスが行き渡っていない事態が起こっています。こうした状況は、複雑に絡み合う健康の社会的決定要因として健康格差をさらに広げます。健康格差とは、社会環境の中で人為的に生じた不公平です。これを克服するため、全世界の指導者達は人権および社会正義という側面から、環境、社会、文化、経済活力の維持のみでなく、都市部の健康改善及び健康格差の是正を実現する対策を取り始めています。

都市部における健康格差は都市生活者全員に影響を与えます。伝染病の発生、社会不安、犯罪や暴力なども健康格差から起こり得る弊害であり、こうした弊害の脅威は一定の居住区や行政区だけにとどまらず、容易に都市の全人口に波及し、都市の評判を傷つける可能性があります。健康格差是正の対策を講じることにより、民間セクターへの魅力的な投資、社会的団結、犯罪や暴力の減少のみでなく、住民の間で所得、年齢、性別、居住区の区別なく保健効果がもたらされるはずです。

2010年には下記のWKCの研究課題に大きな進展が見られました：

- 健康の公平性評価と対応
- 都市部の保健行政研究
- 気候変動と都市部の健康

A. 健康の公平性評価と対応

「都市における健康の公平性評価・対応ツール (Urban HEART)」は、健康格差の是正に向けて、自治体の政策決定者やコミュニティによる証拠の収集や対策作りを支援するために開発されたツールです。2010年の正式発表に先立ち、2008～2009年には10ヶ国の17都市でUrban HEARTが試験的に導入されました。これは、政策決定者の都市部の健康

格差是正を支援するため開発したWKCの主要な研究成果の1つです。Urban HEARTの「評価」の章は、既存データを使って健康格差を評価するのに適した指標を選択するプロセスを助け、「対応」の章は、各都市の健康格差を是正する最善の政策や介入策を判断する際の指針となります。

実績

Urban HEARTの完成・発表：Urban HEARTを試験的に導入した都市からの所見、および世界中の専門家からの技術的助言を受け、Urban HEARTは2010年9月に正式に完成発表され、現在フランス語、スペイン語、日本語、中国語への翻訳が進められています。本ツールの付属書としてUrban HEARTの実施を手順ごとに説明するユーザー・マニュアル(取扱説明書)も作成されました。2010年には4つのWHO地域で、自治体の役人やコミュニティリーダーにUrban HEARTの使用方法を指導するワークショップが開催されました(アフリカ、東地中海、アメリカ地域で各1回、西太平洋地域で2回)。ワークショップの質の維持と円滑な進行を助けるため、講師用のマニュアルも作成されました。

Urban HEARTの実践使用：普及拡大に向けた努力の結果、Urban HEARTを導入する都市や国が増え、それをきっかけとして自治体やコミュニティにおいても健康格差の特定と是正への取り組みが積極的に進められるようになりました。2008～2009年にUrban HEARTを試験的に導入した都市では、本ツール使用の効果が徐々に手ごたえとして感じられるようになっていきます。例えば、フィリピンのパラニャーケ(マニラ)では、恵まれない地区での医療施設内出産率が2008～2010年の間に9%から65%に急上昇しました。こうしためざましい効果はパラニャーケに限らず、他の都市からも報告されたことから、フィリピンは国家政策の一部である都市投資計画の中でUrban HEARTを健康格差是正対策の計画・モニタリングのツールとして使用することを提唱しています。WKCは2011年度、Urban HEART導入のプロセスと成果に関する評価を行う各都市を支援していきます。また、専門家や都市の政策決定者

からの所見に基づき、WKCは次期2ヵ年計画（2012～2013年）時に、政策への浸透度および健康の公平性影響評価に関する研究を進める予定です。

Urban HEART 実施のための支援

WKCは次のような側面から、都市のUrban HEART実施を支援していきます：

- WHO地域事務局と連携し、Urban HEARTをより多くの国や都市に導入
- Urban HEART実施に関する技術的支援
- ユーザーマニュアル、双方向性ウェブサイトなど役立つリソースを新たに開発
- 影響評価をおこなう際の測定基準と測定方法の開発

Urban HEARTのダウンロードページ：
www.who.or.jp/urbanheart.html



B. 都市部の保健行政研究

保健行政研究は非常に幅の広い研究分野です。WKCは都市部の健康格差を是正する手段を政策決定者に提案すべく、その証拠収集に尽力しています。2010年には、多部門協調による保健事業（ISA）を推進する戦略が策定された一方、都市生活者に馴染みの深い特定の健康問題（受動喫煙の防止など）への取り組みが進められました。

実績

多部門協調による保健事業：2010年9月、12ヶ国以上から政策決定者（現職および前厚生大臣等を含む）、学識者、公衆衛生関係者、WHO職員などの専門家がヘルシンキに集まり、ISAに関する協議会を開きました。この協議会の結果、多部門協調による保健事業を促進する方法について政策決定者向けの提案書がまとめられ、11月に神戸で開かれた「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムに出席した国や地方自治体の指導者により検討されました。その詳細は以下の通りです。

多部門協調による保健事業（ISA）

グローバル・フォーラム期間中に、大臣、知事、市長などの政府関係者が多部門協調による保健事業（ISA）を主題とする特別分科会を開きました。その目的は、多部門協調による保健事業の実践に関して政策決定者向けに草稿されたガイドライン案を検討することでした。ここで提議・検討された内容は、同ガイドラインの作成に生かされます。同分科会の要旨は以下の通りです：

- 効果的に健康の決定要因に取り組み、確実に都市生活者の健康格差を是正するには、多部門協調による保健事業が重大な役割を果たす。
- 自治体の長が中心となって複数部門の協力を促すことにより、多部門協調による保健事業を成功させるチャンスに恵まれている。
- 保健部門は、部門間の相互利益を推進し、他部門の活動や決定事項がいかに人々の健康に貢献するかについての認識を高める活動をまず優先して行うべきである。
- 多部門協調による保健事業を成功させるには、あらゆる行政レベルで多部門連携に対する政治的リーダーシップと公約を確保することが不可欠である。



WKCはこの経験に基いて、a) 都市環境における人々の身体運動やエクササイズの促進、b) 都市部における健康の公平性促進を念頭に置いた都市計画、という二点でISAを推進し、政策決定者のために成功事例を記録していきます。

禁煙都市プロジェクト：禁煙都市プロジェクトは2010年に最終段階を迎え、政策決定者への提案（「禁煙都市への12ステップ」）と、都市生活者を受動喫煙から守るためのモデル条例を発表しました。この提案は、2010年11月に神戸で開かれた「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムなどで発表されました。禁煙都市プロジェクトは、タバコ関係にとどまらず、他の保健行政分野においても政策方針開発につながる行動枠組みを提供しました。

禁煙都市への12ステップ

1. 活動計画・実行を担う対策委員会を設置する。
2. 専門知識を蓄える。
3. 地方条例の専門家に関与してもらう。
4. 様々な法的措置の可能性を検討する。（タバコ業界からの訴訟の可能性も含めて）
5. 政治的チャンピオンを味方につける。
6. 市民社会団体の参加を募る。
7. 評価・監査の専門家と連携する。
8. メディアやコミュニケーションの専門家と協力する。
9. 条例（法）執行機関と緊密に協力する。
10. ガイドラインを作成し周知させる。
11. 施行日を記念して祝う。
12. 条例（法）の執行・管理を確実に行う。



Chandigarh/Hemant Gosami



C. 気候変動と都市部の健康

都市部の貧困層には適切な避難所が不足し、医療サービスへのアクセスが十分でないため、気候変動による健康リスクが最も高いことがわかっています。前期2ヵ年計画（2008～2009年）に続き、2010年には気候変動が都市部の健康に及ぼす影響と都市の備えに関する研究が継続され、節足動物媒介性疾患、水媒介性疾患、熱波に気候が与える影響、気候変動に関する都市部の脆弱性と災害への準備度、さらに気候変動政策の健康に関する共通利益の研究が行われました。

それぞれの地域に則した気候変動の影響および都市部の脆弱性と災害への準備度に関する証拠を集めることにより、政策決定者が気候変動の健康リスクを効果的かつ公平に解決する方策を見出し、ひいては都市部の災害リスクの削減と気候変動に耐え得る都市づくりを推進することが期待されています。



WHO/Azumi Nishikawa

実績

気候変動の研究：2010年には気候と感染症の関連性に関する研究プロトコルが完成しました。これとは別に、都市部の気候変動が健康面に与える脆弱性を評価する研究プロトコルも作成されました。これらを利用することにより、都市の役人およびプログラム実施者は、気候変動に起因するリスクを特定・測定し、リスク削減に必要な対策を採り、気候変動によって起こり得る健康被害に対応することができます。

WKCはさまざまな都市と協力して、気候変動のインパクト緩和と適応の共通利益の検討および計画作成を行いました。例としては、上海の都市エネルギー政策がもたらす健康上の共通利益や、兵庫県の熱波に対する公衆衛生部門の準備度と対応に関する草案作成時の提言などがあげられます。WKCは現在、南東アジア地域諸国で気候変動と都市部の健康に関する研究を支援しています。

能力開発：自治体の役人を対象に、気候変動がもたらす健康被害に関するワークショップマニュアル試作版の再検討が行われました。同マニュアルの第二試作版は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）による第四次評価報告書とWHOの所見を取り入れて完成しました。WKCおよびWHOジュネーブ本部のウェブサイトより入手可能です。



WHO/A Kari



WHO/A Kari

III. 都市における健康の公平性のためのアドボカシー

都市部における健康の公平性を広く提唱し、国や自治体の指導者、都市健康問題の専門家、コミュニティ、その他関係者から行動の公約を取り付けることも、WKCの重要な任務の1つです。その点で2010年は、この問題の世界的な認知度を上げるアドボカシーに徹した重大な一年でした。その成果は、都市部の健康格差問題に取り組むことを確約したパートナーの数、世界保健デーに参加した都市の数、世界のマスメディアが都市部の健康問題を取り上げた頻度、などから明白です。これには、2010年を通じて計画的に実行された一連の世界的イベントー世界保健デーキャンペーン、国連ハビタット共著のグローバル・レポート『隠れた都市の姿』の完成、国および地方自治体の指導者が一堂に会したグローバル・フォーラムの開催、80ヶ国以上の代表者が都市部の健康格差の是正を公約した神戸行動宣言、などの成功が基となっています。

この「都市化と健康」年間キャンペーンでは、WKCが全世界の活動を総括する事務局を務めました。WHO本部以外のセンターが世界事務局を務めたのはWHO創設以来初めてのことです。

A. 都市部の健康改善を目指すグローバル・パートナーシップの構築と維持

都市化と健康に対する認知度を世界的に高め活動を推進するために、WKCは他の国連機関、パートナー、国や自治体の指導者と協力しています。

2010年には主に以下のパートナーシップ活動が展開されました。

- 都市化の傾向および都市部における健康格差問題を明らかにするため、国連ハビタットと引き続き連携し、WHOと国連ハビタットの共著によるグローバル・レポート『隠れた都市の姿』を11月に発表。
- 2010年のキャンペーンに際し、WHO各地域事務局および各国事務所からの活発な支援。
- 都市部の健康促進イニシアチブに市長からの支援を取り付けるため、「Walk and Bike for Life（ウォーキングとサイクリングで健康生活）」や「World Streets（ワールド・ストリート）」などの市民社会運動組織と提携。
- 健康都市連合（AFHC）、メトロポリス（Metropolis）、ユーロシティーズ（Eurocities）、ヨーロッパ・ニュータウン・プラットフォーム（ENTP）などの自治体ネットワークに働きかけ、健康促進に関する持続可能な共同アジェンダを策定、都市における健康の公平性という課題を各団体のプログラムに取り入れてもらう。
- 人的交流、意見交換、および研究結果の実用的採用の促進を通じて、都市の健康に関係する研究者ネットワークの強化、推進。



WHO/WKC



B. 2010年世界保健デーのキャンペーン

2010年世界保健デーは、都市化と健康に関する全世界の問題意識を高めるキャンペーンの最初のイベントでした。このキャンペーンは、健康効果持続のために、世界の諸都市が部門の枠を越えて多岐にわたるパートナーと積極的に協力することを主眼としました。

WHOは全世界に向けて次の五か条の行動宣言を発し、健康都市づくりを提唱しました：

1. 健康な行動と安全性を重視した都市計画の促進
2. 都市部での居住条件の改善
3. 市民参加型の都市行政
4. 誰にとっても住みやすく、高齢者にも利用しやすい都市づくり
5. 災害や緊急事態に強い都市づくり

世界137ヶ国から1500以上の市や町が世界保健デーに参加しました。その参加形態は多様で、中国では健康都市づくりを奨励する国レベルのプログラムを催し、世界各地の諸都市では計数百キロに及ぶ道路を歩行者天国として開放し、エクササイズや各種運動イベントが実行されました。参加登録した諸都市には、本キャンペーンのメッセージの広報と活動の実行に役立つ様々な情報が提供されました（6ヶ国語で作成されたイベント主催者向けツールキット、都市化と健康の問題を取り上げた小冊子『Why urban health matters』、および五か条の行動宣言にスポットライトを当てたショートビデオなど）。このたびのキャンペーンの鍵としてインタラクティブマップの開発があります。これは2月に「1000 cities」のウェブサイトで紹介されたもので、世界保健デーに参加してイベントを登録する都市の窓口として活躍しました。

世界保健デーとそのテーマ「進行する都会化と健康を考える」については、世界各地の紙面や電子メディアで報道されました。中でもCNN（米国）は本イベントに関するレポートをシリーズで取り上げたほか、ファイナンシャル・タイムズ紙（英国）もこのテーマで特集を組みました。同キャンペーン中には、国や自治体の協力を得て、都市の健康増進に貢献した「都市の健康チャンピオン」や取り組みの優良事例が紹介されました。



C. 「隠れた都市の姿」-WHOと国連ハビタット 共著のグローバル・レポート



「隠れた都市の姿:健康格差是正を目指して」と題するグローバル・レポートは、世界中で急激に都市化が進む中で、地方自治体と国レベル、そして世界規模の保健セクター関係者のコミュニティを結集して健康格差を是正するための対応力強化を図るWHOと国の一環としてまとめられました。

同レポートは、都市部の貧困層がいかに社会・経済・居住条件から起因する多くの疾病や健康問題に苦しんでいるかに焦点を当てています。また、自治体や保健衛生関連部局が健康格差の是正に取り組む際に役立つ、実証に基づく情報とツールも紹介しています。

同レポートは、150名以上の学識者、WHOおよび国連ハビタット職員、研究者、実務者、政策決定者からの意見やアドバイスと専門家による評価過程を経て編纂されました。2010年11月17日に発表された同レポートは、印刷物として、メディアを通じて、またWHOと国連ハビタットのウェブサイトから頒布されています。

D.「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムと神戸行動宣言

2010年11月15～17日、世界81ヶ国から300名以上の大臣、知事、市長、市民社会の代表者など多岐にわたる部門の政策決定者が神戸に集まり、将来の都市部の健康問題取り組みについて話し合い、フォーラム期間中の討論と結論を要約した「神戸行動宣言」を最終的に発表しました。これは、国および自治体の指導者が都市部の健康問題、及び健康の公平性に取り組む公約の意思表示と言えるものです。（付録2を参照）

E. コミュニティ・地域社会との協力

WKCは今後も引き続き各地域のコミュニティと協力して、都市部の健康増進とプロジェクト提携を進めていきます。

2010年に国内で実施された主な活動は以下の通りです。

- 日本の20都市が世界保健デーのイベントに参加。
- 4月中、神戸のフラワーロードは世界保健デーの旗で飾られ、4月24～25日の週末には6キロウォーキングや健康セミナーなどのイベントを開催。これらイベントの様子は地元のテレビに取材されました。
- 2009年4月に発生した新型インフルエンザ(H1N1)に兵庫県と協調して対応。2010年も、WHO本部からのウィークリー・グローバル・アップデートを日本語と英語でWKCウェブサイトに掲載。
- WHO専門家やコンサルタントを招いて、感染症に関する県民向けの講演会を開催。



IV. 運営管理および インフラ・テクノロジー支援

A. 都市における健康の公平性の主流化

2006～2010年のWKCの業績、特に都市部の健康に関するリーダーシップ強化を鑑み、一連の協議会や2月におこなわれた外部専門家とWHO職員による専門家検討会を通じて、WKCの今後5年間の戦略と方向付けの見直しが行われました。2010年世界保健デーの行動宣言および現行のWHO優先課題（ミレニアム開発目標の達成、気候変動と健康の相関性研究、保健医療制度強化）に基づき、2011～2015年の戦略が策定されました。

次期5ヶ年戦略は、国および地方自治体レベルの都市政策や計画策定段階で、実情に見合い、部門横断的かつ実行可能な、実証に基づく介入策の枠組みを築くことにより、都市環境における健康格差を是正するという全体的な目標を反映しています。

ビジョン：都市部のすべての人々に健康を

使 命：都市に公平な健康をもたらす政策決定に向けて、健康格差傾向の調査、および証拠の検証という側面から研究を推進、主導する。

都市における健康の公平性を都市政策に主流化する際のアプローチとしては、新しく何かをはじめるのではなく、成功している既存のイニチアチブを基礎として、更に「公平性」という視点が常に考慮されるよう強化、調整していくことです。このアプローチは1) 都市の健康評価、2) 都市部の保健行政研究、3) 都市部の健康危機管理という3つの基本柱に基づき、これらの基本柱は、研究、能力開発、アドボカシーという分野横断的な活動によって支えられます。



WHO/HQ



WHO/HQ

B. 兵庫県、神戸市とのパートナーシップ

世界中の幅広い分野の専門家や諸機関から知識の提供や協力を得る一方、日本国内の支援、指導、技術協力なくしてWKCの事業は成し得ません。WKCは、日本の諸研究機関との既存の関係を強化するとともに、戦略的なつながりを築き、またWHOやWKCとその活動に対する知名度を高める活動もおこなっています。

2010年、WKCと神戸グループは過去5年間の活動の共同評価を行い、結果として、今後2011～2015年に地元で展開すべき3つの活動：研究（地元の諸機関との共同研究、ならびに地元と海外の研究機関の橋渡しなど）、アドボカシー（WHO専門家によるセミナー、広報イベントなど）、情報交換（健康危機管理、世界的および地元特有の健康問題に関する指針など）に合意しました。



WHO/WKC

C. 情報通信テクノロジー（ICT）と運営管理

WKCの2010年度活動計画を効果的に実施するにあたり、運営管理面ならびに情報通信テクノロジーなどインフラ面の支援がおこなわれました。2008年に導入されたWHOのERPシステム（GSM）は安定度を増し、その性能は向上しています。ウェブやテレコミュニケーション関連の最新テクノロジーも積極的に活用されました。またセキュリティ対策も、世界基準と成功事例に準拠し大幅にアップデートされました。WKCが都市部の健康格差に関する研究とプログラムを拡張し、都市部の健康格差を是正するという目標を達成するには、ICTと運営管理面からの系統的な支援と最新鋭のアプローチが不可欠です。



WHO/WKC

V. 結論および今後の計画

2010年、WKCは都市部における健康の公正性を広く提唱し主導する立場を全世界に印象づけることができました。またアドボカシー、コミュニケーション戦略、各種イベントを通して、この問題に対する人々の意識や認識を高めることにも成功しました。さらにWKCは、都市部の健康格差に関する証拠の発見、保健行政の成功事例の分析、健康格差是正のための政策やプログラムの実施に役立つ政策決定者向けのツール開発をおこないました。

今後5年間にWKCが目指すのは、都市部における健康の公平性の概念を都市政策に主流化することです。2011年にはUrban HEARTの拡大実施に伴うプロモーション、能力開発の推進と実現、ならびに必要な応じた技術支援が予定されています。また自治体の指導者には、多部門協調による保健事業を進めるための提案や都市部での身体運動促進など、保健行政研究から導き出された成功事例に基づく指針が提供される予定です。またWKCは、災害や気候変動が健康に与え

る影響に対して、都市が効果的かつ公正に対応できるよう、都市の脆弱性評価と保健医療制度の強化に役立つツールと能力を開発していきます。



WHO/A Kari



Villa Carlos Paz/Carlos Federico

ANNEXES

- 付録1: 2010年 WHO神戸センター諮問委員会
- 付録2: 神戸行動宣言
- 付録3: 2010年 WKC出版物および研究発表
- 付録4: 2010年 職員名簿

付録1:
2010年WHO神戸センター諮問
委員会

WKCの特徴の1つとして、その研究プログラムには柔軟性があり、WKCの研究アジェンダに合わせて定期的な更新、調整が可能となっています。WKCの研究は多部門協調による保健事業であるため、その研究の科学的妥当性を確保するために諮問委員会が設けられています。WHO健康開発総合研究センター諮問委員会（ACWKC）は、2010年11月17日に14回目の会議を開き、以下のような結論と答申を出しました。

■ 結 論

諮問委員会は、WKC所長ならびに職員に対して、都市部の健康格差の是正を目標とした過去1年間の研究活動による実績を認め祝辞を述べた。「都会化と健康を考える」キャンペーンのWHO世界事務局として発揮した指導力、さらに世界保健デー、グローバル・フォーラム、WHOと国連ハビタット共著のグローバル・レポートという三大イベントを達成した業績も高く評価する。その成果は、少なくとも3つのWHO地域で開催された委員会の決議内容、およびグローバル・フォーラムに出席した国や地方自治体指導者による神戸行動宣言の支持、という形で実を結び、都市部の健康について加盟国の検討を促す原動力となったと言える。さらにWKCの事業、特に多部門協調による保健事業は、2011年9月に開かれる国連総会の非感染性（NCD）サミット、ならびに10月にリオデジャネイロで開催予定の健康の社会的決定要因に関する世界会議など高レベルの国際的政治会議での議論にも貢献すると期待される。諮問委員会はまた、神戸グループの一貫した支援に謝意を示すと共に、WKCが今後も地元の健康問題とパートナーシップ推進の活動を続けることを希望する。2010年に達成した活動の勢いを維持するWKCの努力を高く評価し、同諮問委員会は「都市部における健康の公平性の主流化」を目標とするWKCの2011～2015年の戦略実施を広く周知させ、支援していくことに同意した。

■ 提 言

WKC諮問委員会による提言は以下の通りです。

1. WKCは、WHO地域事務局および関連部署と協力して、都市部における健康の公平性を都市政策に主流化するため、2011～2015年戦略を実施する。
2. WKCは、都市の健康評価、都市部の保健行政研究、都市部の健康危機管理という3つの要素に基づく2011～2015年戦略の枠組みに従い、2010～2011年の2ヶ年活動計画を遂行する。
3. WKCは、都市政策が健康の公平性に与える影響を評価し、多部門協調事業により健康が改善された事例を記録するために、新たな証拠を収集し、ツールと指針を作成する。
4. 2010年に勢いのついた活動を持続させ、都市部の健康格差是正に役立つパートナーシップとネットワークを構築する。
5. WKC協力委員会との間で合意された地元での活動を推進し、WKCの地元での知名度向上をはかる。
6. 都市部の健康格差問題をWHO地域事務局および諸機関の事業に主流化する作業を維持する。
7. WKCの2011～2015年戦略実施に向け、神戸グループの支援の継続を依頼する。

付録2:
神戸行動宣言

基本原則

我々、各国政府の指導者、市長その他の「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラム出席者は、都市保健政策の発展に重要な三大原則を下記に掲げます。

1. 健康的な都市作りに向けて、都市部の健康格差を明らかにし、その是正に取り組みます

都市部の健康を理解するためには、どの住民に、どのような健康問題があり、その理由は何かを調査することから始まります。これが自治体にとって問題の内容、所在、最善の対策を理解する糸口となるのです。

都市の健康格差、特に安全な水の不足と衛生状態、生活習慣病などの決定要因調査には、信用度の高い測定方法を使うことが重要です。

2. 多部門協調により健康問題に取り組み、「健康」の視点をあらゆる都市政策に主流化するために指導力を発揮します

都市部の健康格差への取り組みにおいて、最も重要な役割を果たすのは自治体です。自治体には、レベルや分野の異なる行政機関の力を結集して、公平な健康の実現を、都市政策立案プロセスの中心に据える能力があります。

こうした行動を実現するには、幅広い分野の地元リーダーの支援、「健康」と「健康の公平性」についての共通のビジョン、実施支援体制の整備、政策及びプログラムが健康に及ぼす影響の測定、市民社会、民間セクターなどの協力者との連携、などが絶対必要な条件となります。





**3. 都市政策・都市計画策定に地域社会の参加を
促すために効果的なメカニズムを用います**

地域社会は彼らの生活に影響を及ぼす政策決定に積極的に関与する必要があります。地域社会は往々にして自らの状況を最も良く知っており、何をすべきなのかについても分かっているからです。また、状況変化に対応する力も持っています。自治体は健康格差を是正するのに適した立場にありますが、政府の他のレベル、特に地域社会の参加を確保しなくてはなりません。これは都市計画の過程で個人と地域社会のエンパワーメント及び住民参加を促すことで実現します。

「都市化と健康を考える」グローバル・フォーラムに出席した各国政府の指導者、市長他の出席者は以下の行動を誓います。

- 都市の健康と健康の公平性を推進します。
- 都市の健康格差を明らかにする細分化されたデータを定期的、恒常的に収集・分析できるようなシステムを開発します。
- 多部門協調によってあらゆる都市政策（教育、水質衛生、住宅、喫煙対策、交通や交通安全、身体運動、健康な食習慣、こころのケアなど）に健康の視点を取り組む（主流化する）ことにより健康の公平性を実現します。
- 健康の公平性評価ツールを体系立てて使うことにより健康格差を明らかにし、都市政策や都市でのプログラムが住民の健康に与える影響について評価します。
- 都市計画の策定過程で健康格差を解決する機会を見出し、活用します。
- 住民が十分に情報を得た上で地域社会での政策決定に参加できるメカニズムを活性化させます。
- 住民がより健康的な生活を送れるよう、健康リテラシーを奨励します。

全ての自治体の行政機関に対する要求：

- 上記の誓いを実行に移すこと。

市民社会に対する要求：

- 上記の誓いを実行する自治体をサポートし、かつ積極的に関与すること。

全ての国政府に対する要求：

- 健康と健康格差の視点をすべての都市政策に組み込むこと。
- 健康格差とその影響評価に関するデータを、行政のあらゆるレベルや部門に提供できるようにすること。
- 自治体レベルで多部門協調により健康格差問題に取り組めるよう、組織的な支援体制を整えること。
- 国家の元首に、2011年9月の国連総会で開催予定の非感染症ハイレベル会議において都市部の健康の公平性への配慮を提案に含めることへの支持を働きかけること。
- プライマリーヘルスケア、都市の健康と健康の公平性に取り組む都市のリーダーシップを支援すること。



ダウンロードページ：www.who.or.jp

世界保健機構（WHO）、国連ハビタットや他の国連機関に対しての要求：

- 都市の健康と健康の公平性への取り組みのための協調、証拠収集、多部門連携に関する政策や行動を支持すること。
- 都市の健康と健康の公平性の視点を自治体ネットワークや市民社会団体の政策や行動計画に組み込むことを奨励すること。
- 地方における意思決定や健康の格差是正に向けて地域社会をエンパワーするツールやプロセスを開発すること。
- 都市部の健康改善、および健康格差削減に向けて、また都市政策が健康に及ぼす負の影響を減らすため、技術及び能力開発の面で加盟国や自治体を支援すること。
- 「健康都市ネットワーク」や類似のネットワークを、健康的で持続可能な開発に向けた地域レベルでの政治的公約や行動につなげる効果的なメカニズムとして支援すること。



付録3:
2010年WKC出版物および研究発表

テクニカルレポート

Evaluation of the Effects of Climatic Factors on the Occurrence of Diarrheal Diseases and Malaria: A Pilot Retrospective Study in Jhapa District, Nepal
Hidden Cities: Unmasking and overcoming health inequities in urban settings (jointly published with UN-HABITAT)
Urban HEART: Urban Health Equity and Response Tool
Why Urban Health Matters

プレゼンテーション

タイトル	会議名	WKC 担当官
An overview of WHO and WKC activities	Visit from School of Nursing, University of Kindaihimeji, 19 January	Bradford, Mr Richard
Utility of an Urban Health Index	3rd meeting of the GRNUHE (Global Research Network on Urban Health Equity), Bellagio, Italy, 2-4 March	Prasad, Mr Amit
Health impact of climate change and the role of epidemiology	SEA Regional Conference on Epidemiology, New Delhi, 8-10 March	Kumaresan, Dr Jacob
A global perspective on urbanization and health	WPRO World Health Day celebrations, Manila, 8 March	Lapitan, Dr Jostacio
World Health Day Global Launch	World Health Day, Geneva, 7 April	Kumaresan, Dr Jacob
The Urban Health Equity Assessment and Response Tool – Urban HEART	5th International Academic Conference on Environmental and Occupational Medicine, Duijiangyan, Chengdu, China, 7-10 April	Kano, Dr Megumi
Climate Change, Public Health and WHO-Lagos State Collaboration	Second Lagos Summit on Climate Change, 4-7 May 2010	Kumaresan, Dr Jacob
Why urban health matters	2010 Mini Forum on Urbanization and Health, Kobe, 21 May	Sloate, Ms Lori
Urbanization and health: an overview of our research	2010 Mini Forum on Urbanization and Health, Kobe, 21 May	Kano, Dr Megumi
Research and analysis activities at WKC	2010 Mini Forum on Urbanization and Health, Kobe, 21 May	Prasad, Mr Amit and Dr Megumi Kano
Health challenges in cities	European Commission's Conference "Healthy Cities", Shanghai, China (during the Shanghai EXPO), 4 June	Kumaresan, Dr Jacob
WKC's work on ISA	Workshop for Authors – Inter-sectoral governance for Health in All Policies, Brussels, 7-8 June 2010	Armada, Dr Francisco
Megacities and health	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2010 (ICEID 2010), Atlanta, 10-14 July	Prasad, Mr Amit
Urbanization and Health: challenges and promises	Seminar on Capitol Hill, "Improving Health Outcomes for the Slum Dwellers and the Urban Poor", Washington DC, 20 July	Kumaresan, Dr Jacob
Healthier People in Healthier Environments	Training Course for Future Health Leaders Development, Tokyo, 29 July	Kumaresan, Dr Jacob
Cities and health	Together with the UN Seminar, Tokyo, 27 August	Kano, Dr Megumi

タイトル	会議名	WKC 担当官
WKC's research on the health impacts of climate change in urban settings	Research Network for Health Effects of Climate Change and Air Pollution in the East Asian Countries, Seoul, 31 August	Lapitan, Dr Jostacio
WHO's role and activities	Development of Coordinators for Disaster Nursing for Middle East and Asian Countries, Kobe, 9 September	Lapitan, Dr Jostacio
Urbanization and Health	Forum "WHO and Japan", Osaka, 15 September	Kumaresan, Dr Jacob
WKC's main areas of work	2010 Board Meeting of Metropolis, Barcelona, 6 October 2010	Armada, Dr Francisco
Urban Health Lessons from Megacities	Working session: "Megacities: Opportunities and Challenges for Health", World Health Summit, Berlin, 10-11 October	Armada, Dr Francisco
An introduction to Urban HEART	4th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities, Mayors Meeting, Gangnam-gu, Seoul, 27 October	Kano, Dr Megumi
Health in All Urban Policies	9th International Conference on Urban Health, New York, 27-29 October	Armada, Dr Francisco
Global Overview of Urban Health: Challenges and Promises	9th International Conference on Urban Health, New York, 27-29 October	Kumaresan, Dr Jacob
Urban HEART	WKC Seminar and workshop at the 9th International Conference on Urban Health, New York, 27-29 October	Prasad, Mr Amit
WHO's campaign on urbanization and health	4th Meeting of Public Health Associations in Asia, Tokyo, 28 October	Lapitan, Dr Jostacio
Addressing urban health inequities: challenges and solutions	Symposium on Interactive Health Sciences Education within developing countries – Graduate school of education leads the way, Kobe, 19 November	Kumaresan, Dr Jacob



付録4:
2010年 職員名簿

所長室

ジェイコブ・クマレサン

奥田 啓子

総務

赤澤 俊一

今井 亜紀子

ジェームス・オベレ

ロメロ・レロマ

坂口 美樹

リホン・スー

竹林 順子

研究プログラム

ムハマッド・アフザル

ニナ・アンダーソン

ヤコブ・アンダーソン

フランシスコ・アルマダ

井上 葉子

狩野 恵美

ジュスタシオ・ラピタン

アミット・ブラサード

メリッサ・ロメロ

ヘラルド・サンチェス

横尾 真理子

アドボカシー・グローバルパートナーシップ

荒井 美奈

リチャード・ブラッドフォード

ルーシー・ブラウン

ロイック・ギャルソン

川瀬 千晶

ロバート・マティル

西川 あずみ

ロリ・スロート

渡辺 真紀子

吉田 久美子



WHO/A Kari